

# 海外にルーツをもつ児童・生徒の 教育を考えるフォーラム2021

2021.08.19

Man to Man株式会社

Projeto SORTE

村山 グスタボ 秀夫

Gustavo Hideo MURAYAMA



×



# ■ 会社概要

- ・社名: Man to Man 株式会社
- ・本社: 愛知県名古屋市中区新栄一丁目7番7号
- ・設立: 2001年2月28日
- ・代表: 代表取締役 田中正次
- ・社長: 取締役 手島雄一
- ・事業: 総合人材サービス

有料職業紹介事業 [23-ユ-301086]

労働者派遣事業 [派23-301331]

再就職支援事業

紹介予定派遣事業

生産・物流業務受託事業

経営・人材コンサルタント事業

## ■ 拠点: 国内13拠点

浜松オフィス、三河オフィス、名古屋オフィス、春日井オフィス、四日市オフィス、  
大阪オフィス、小野オフィス、岡山オフィス、広島オフィス、北九州オフィス、  
宮崎オフィス、鹿児島オフィス、沖縄オフィス



Man to Man Group

<https://www.man-to-man-g.com>

# ■ 自己紹介

- ・氏名: 村山 グスタボ 秀夫
- ・生年月日: 1989年 7月22日
- ・出身国: ブラジル(サンパウロ州カンピナス生まれ)
- ・両親: 父(日系ブラジル人) 母(ブラジル人)
- ・来日: 1996年
- ・略歴:
  - ・2010年、外国語(英語)の専門学校卒業
  - ・日系ブラジル人が経営する企業にて翻訳、通訳業務に従事。
  - ・2013年から一般財団法人日本国際協力センター(JICE)にて、定住外国人の安定就労を目的とした日本語やビジネススキルの習得研修コーディネーターとして従事し、国際協力や多文化共生への理解が深まる。
  - ・2017年よりMan to Man株式会社にて外国人の雇用促進や生活改善、多文化共生等、次世代の育成に関する活動に取り組んでいる。



日系  
ブラジル  
三世

# ■ 日系ブラジル人とは？



鷹取 満子

1920年11月3日生(山梨県)

1933年7月27日

ARIZONA MARUにて  
ブラジル入国 (ミチコ13才)



村山 徳夫

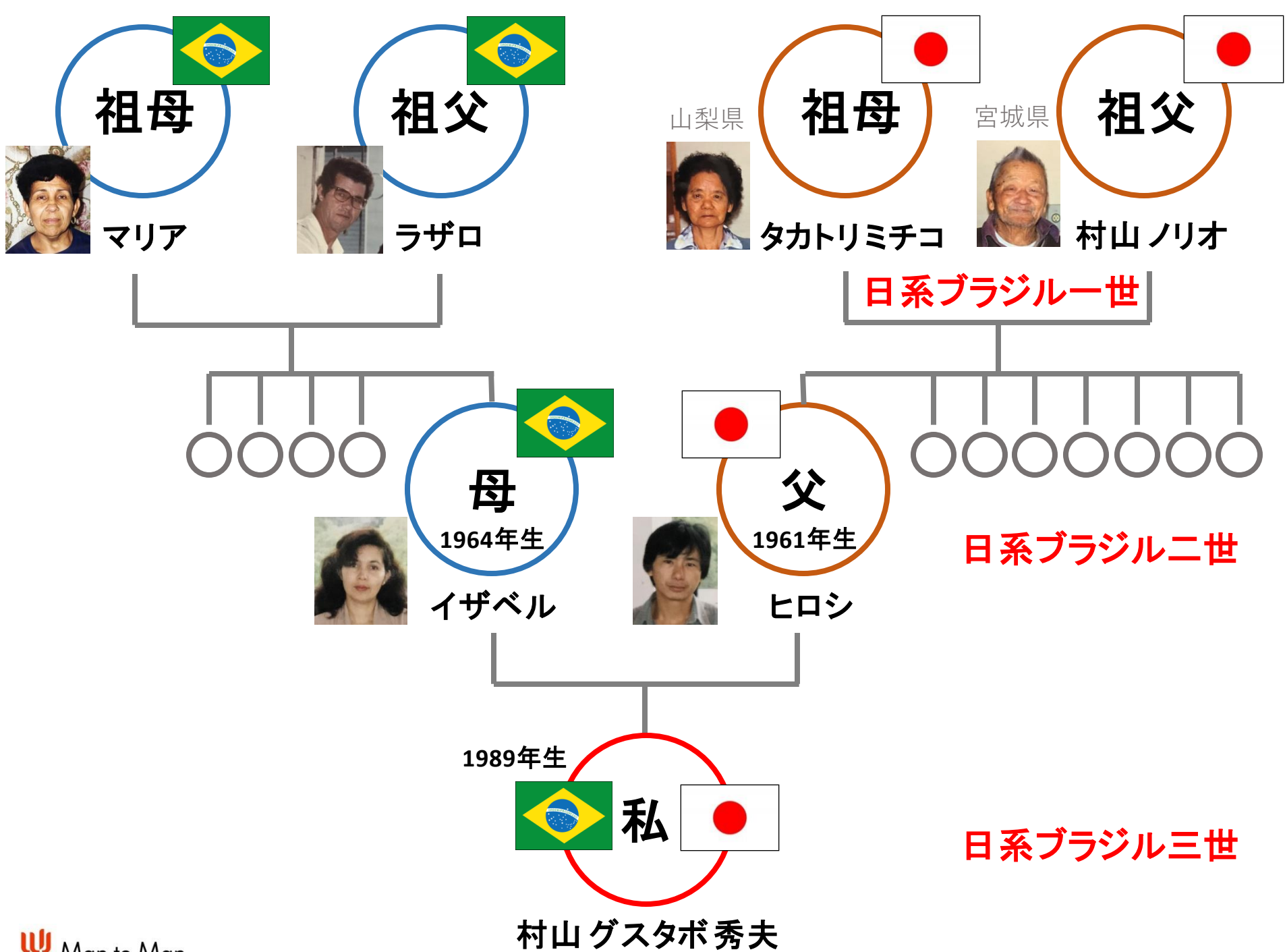
1914年1月1日生(宮城県)

1929年1月15日

KANAGAWA MARUにて  
ブラジル入国 (ノリオ15才)



1939年(昭和14年)6月15日結婚  
(ノリオ25才・ミチコ19才)



# ■ 日系ブラジル人の経験談

## 日本で教育を受けた経験から考えること



# ■ 日系ブラジル人の経験談

## 来日理由

当時、6歳。

日本で1～2年働いて、お金を貯めて  
ブラジルに帰る、「**デカセギ**」のために、  
両親と一緒に来日しました。

# ■ 日系ブラジル人の経験談

1996年



千葉県船橋市立 三咲小学校1年生に途中入学

- ・話せる日本語は「ありがとう」、「ごめんなさい」
- ・全校生徒で外国人は3人？
- ・和食(給食)が食べれない
- ・勉強についていけない(理解できない)
- ・ルールがわからない



## ■ 日系ブラジル人の経験談

日本語はわからなくても友達はできた。

放課時は、みんなで遊んだり、  
登下校を一緒にしてくれる子もいた。

# ■ 日系ブラジル人の経験談

## 小山先生の優しさ

給食が食べれない私のために  
毎日、パンを持ってきてくれた。



# ■ 日系ブラジル人の経験談

※ 両親の労働環境が悪く、  
仕事の事情で愛知県に引っ越す。

1997年

豊田市立 西保見小学校2年生に途中入学

- ・クラスにブラジル人が数人いて、  
通訳してくれた
- ・サッカーのおかげでできた友達
- ・日本語教室の存在

# ■ 日系ブラジル人の経験談

## 日本語教室学生 集合写真



平成 11 年 度

日 本 語 教 室

# ■ 日系ブラジル人の経験談

2002年



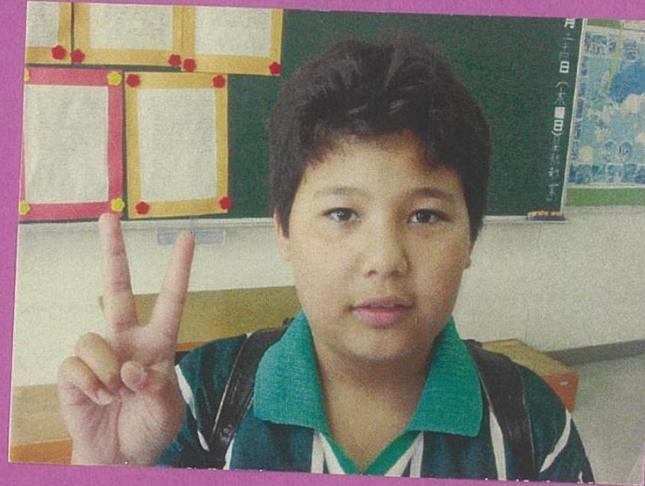
愛知県豊田市立 西保見小学校 卒業

- ・日本語が上達し、日本語での会話も問題なくできるようになった。



# ■ 日系ブラジル人の経験談

小学校6年生



6-2 村山 秀夫  
GUSTAVO HIDEOSILVA MURAYAMA

サッカーが好きで 日曜日や西伊保見タイムに  
6年生のともだちとやっています。

ブラジル SP カンピナスで生まれました。

おとなになったら サッカーせんしゅかになって  
パルメイラスというチームにはいりたいです。

# ■ 日系ブラジル人の経験談

2002年

愛知県豊田市立 保見中学校 入学

- ・4つの小学校が集まり、新しい環境
- ・サッカー(部活でも放課後でも)
- ・日本語教室の存在

日本語教室の目的:

国語や社会等の難しい教科のときに、

**日本語能力試験**の対策教室として、設けられていた。

# ■ 日系ブラジル人の経験談

## 保見中学校での3年間

- 日本語能力試験 1級 取得
  - 日本人と外国人が一緒に学び、遊ぶことが当たり前
- 多文化共生の実現





# ■ 日系ブラジル人の経験談

## 進路の壁

**悩み:** 高校へ行くべきなのか？ なぜ？

**焦り:** 受験に受からない。 ※2校不合格  
高校に行けるのか？

**逃げ:** 卒業して親と同じ工場で働く

準備不足  
崖っぷちの状態

# ■ 日系ブラジル人の経験談

## 母の思い

母は若いときから家計を支えるために働いており、好きだった勉強(学校)を続けられなかった。

→ 勉強を続けて欲しい。

## 先生たちの努力

ギリギリまで受験できる高校はないか、  
受験先を探してくれた。

# ■ 日系ブラジル人の経験談

## 高校受験、無事に合格

2005年

愛知県豊田市立 保見中学校 卒業



# ■ 日系ブラジル人の経験談

## 日本の義務教育を受けて感じたこと

- 施策（日本語教室）の大切さ

日本語ができないから特別クラスを設けるのではなく、日本語をできるようにするためのクラスを設ける。

- 教員の役割の大きさ

何もしなくても、卒業しますが、先生の行動一つで、一人の人生が変わります。

- 仕組みの理解が必要

学生も保護者も義務教育や卒業後の仕組みを理解していないことがほとんどです。

# ■ 日系ブラジル人の経験談

## 人情

6歳で来日して26年間、日本人や外国人に助けられてきました。そして、微力ながら私も彼らを助けてきたつもりです。

大事なのは、国籍や地位ではなく、必要としている人に手を差し伸べること。

ご静聴ありがとうございました。

Muito obrigado a todos.



MGUSTARK